

## 震災復興における「地域の記憶」の継承に関する研究 —新潟県柏崎市えんま通り商店街を対象にして—

### A Study on the Succession of “Regional Memories” in Reconstruction of Earthquake Disaster —A Case Study of Enma.str Shopping Arcade in Kashiwazaki, Niigata—

○石山拓実<sup>1</sup>, 横内憲久<sup>2</sup>, 岡田智秀<sup>3</sup>, 前原裕美<sup>4</sup>\*Takumi Ishiyama<sup>1</sup>, Norihisa Yokouchi<sup>2</sup>, Tomohide Okada<sup>3</sup>, Hiromi Maehara<sup>4</sup>

Abstract : The purpose of this study is that we analyze elements that peoples can feel their hometown because the succession of local identity will be desired in order to protect a community in reconstruction from now on. First of all we examine components of “Regional Memories” in Enma.str Shopping Arcade in the Niigata-ken Chuetsu-oki Earthquake.

1. 背景および目的—2011(平成 23)年 3 月 11 日に日本の観測史上最大規模である M9.0 の東日本大震災が発生し、下北半島から房総半島まで南北 600km にわたる 6 県 62 市町村において壊滅的打撃を受けた。特に気仙沼市や南三陸町といった宮城県沿岸の市町村においては、原形復旧が不可能な被害であると宮城県から報告されている<sup>[1]~[3]</sup>。一方で、被災者からは「元の場所で生活したい<sup>[4]</sup>」「この村がどうなるとも、私たちのふるさとはここ<sup>[5]</sup>」といったように、甚大な被害を受けたにも関わらず、それでもふるさとに住み続けたいといった声も多くみられ、被災者のふるさとへの回帰意識は高いといえよう。これに伴い、早急な震災復興が求められる状況のなか、政府を始めとする学会・協会・委員会などから震災復興に対するハード面での提言として「集落ごとに高台移転」「土地のかさ上げ」「少子高齢化を見据えたコンパクトシティ化」といった被災地の今後のまちづくりの方針が多く提案されている。

しかし、明示されている震災復興の提案は危機回避に特化し過ぎており、被災者の回帰意識に配慮したものは少ないと思われる。上述した震災被害に遭わない対策の骨子は不可欠であるが、復興後のまちに住み続けるのは被災者であることを鑑みると、被災者の回帰意識も考慮しなければならないであろう。また、原形復旧が困難な地域に、地域アイデンティティが配慮されない画一的な震災復興方法が用いられると、地域コミュニティの崩壊を招いた阪神・淡路大震災の過ち<sup>[6]</sup>を繰り返すことも危惧される。よって、今後の震災復興ではコミュニティを保護するために、地域アイデンティティを継承する創造的復興が希求されよう。

そこで、本研究では原形復旧が行われない復興の際にも、自分たちのまちの中にもふるさとを感じる事ができる要素(以下、「地域の記憶」)を解明し、今後の復興計画に位置づけることを目的とする。その始めとし

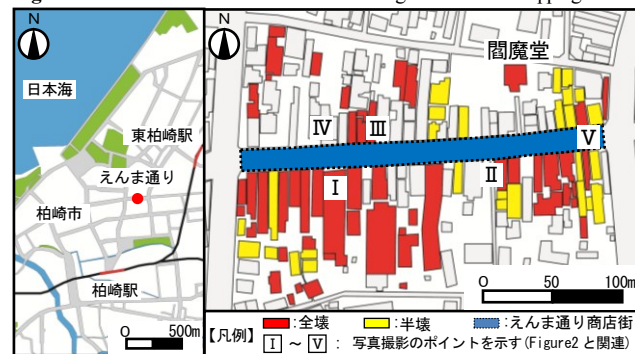
て、本稿では 2007(平成 19)年の新潟県中越沖地震の被災後、地元住民の力で創造的復興を行ったといわれている<sup>[6]</sup>新潟県柏崎市のえんま通り商店街(Figure 1)での「地域の記憶」の構成要素を明らかにする。

2. 研究方法—本稿では、えんま通りまちづくりガイドライン<sup>[7]</sup>を作成する際に、えんま通り復興協議会での住民同士の話し合いがまとめられた議事録(Table 1)<sup>[8]~[9]</sup>を参考に、「地域の記憶」の構成要素を探っていく。

3. 結果および考察—Table 1 は復興協議会での議事録の中の「地域の記憶」を空間で構成する要素を抽出し、「建物」「土地」「文化性」に分類したものである。

(1)「建物」—「建物」は「街並みの印象」「細部のデザイン」に大別され、さらに「街並みの印象」では「通りの連続性」「建築様式」「雰囲気」に分けられた。これらに挙げられる勾配屋根、雁木、和風な建物などは震災直前の記憶ではなく、えんま通り商店街が賑わっていた大正から昭和期のものであった(Table 1. ①~④, ⑦~⑧)<sup>\*1</sup>。これより、被災者には過去の賑わっていた様子が記憶されており、地域に再び賑わいを取り戻すために、「建物」に分類された議事録の内容が挙げられたのではないかと考えられる。また、「細部のデザイン」で挙げられる雁木や勾配屋根は、豪雪地帯特有の機能であることから、自然環境を克服する工夫は人々に記憶されやすいといえよう。さらに、対象地が商店街だったため、

Figure 1. The location and the situation of damage at Enma.str Shopping Arcade



1 : 日大理工・院・不動産 2 : 日大理工・教員・建築 3 : 日大理工・教員・交通 4 : 日大理工・学部・建築

**Table 1.** The elements which constitute “Regional Memories” about Enma.str Shopping Arcade which was extracted from the minutes<sup>[8]~[11]</sup>

【分類】	【項目】	【議事録の内容 <sup>[8]~[9]</sup> 】	
(1) 建物	街並みの印象	① 通りの連続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨除け、風除室を兼ねた庇や下屋、勾配屋根などにより通り沿いの連続性を生み出しましょう。</li> <li>・最低限 1 階部分の付属屋の軒を揃えて、連続感のあるまちなみを生み出す。</li> <li>・雁木があることで大変調和が生まれる。</li> </ul>
		② 建築様式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中庭に増築し、新旧を繋ぎ、細長い空間を住みこなししているのが柏崎の町家らしさだと感じた。</li> <li>・えんま通り商店街の家屋は奥行きを感じさせる商業空間があった。</li> <li>・子供の頃からここで暮らしてきていますが、ごく当たり前に間口が狭く奥行き長い敷地で生活してきたわけです。</li> </ul>
		③ 雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街なみのイメージについては、かつては比較的和風の建物が多かった。</li> <li>・純和風ではないが比較的和風のイメージが良い。</li> <li>・将来の街なみの提案では、純和風ではないが比較的和風のイメージが良いとの意見が多かった。</li> </ul>
	④ 細部のデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通りと連続性のある 1 階の構え、雁木、勾配屋根など建物の形態の大きな基調は揃えましょう。</li> <li>・格子や板壁など、地域の歴史的な外観の構成要素を活用しましょう。</li> <li>・軒の出、霧除け庇など、陰影豊かな町屋の表情を参考にしましょう。</li> </ul>	
(2) 土地	⑤ ランドマーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米山の眺望やおもてなしによる魅力づくりが大切にされている。</li> </ul>	
	⑥ レベル差	<ul style="list-style-type: none"> <li>・えんま通りから裏路地までの間の 6m の高低差を活かし、・・・(以下省略)。</li> <li>・高低差によって生まれる空間を活かしたい。</li> </ul>	
	⑦ 自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪に配慮した建物配置としましょう。</li> <li>・冬の積雪に耐える、耐雪屋根とすることが望ましい。</li> <li>・風雪にさらされる部分は、外壁を守るため、軒や庇の出を確保しましょう。</li> </ul>	
(3) 文化性	⑧ イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・えんま市という文化をより発展的に推進していくことが望まれている。</li> <li>・えんま市のイメージが大変強い。</li> <li>・定期的に市を開きたい。</li> </ul>	

【各項目の視覚的イメージ<sup>[10]~[11]</sup>】



通りと連続性のある 1 階の構え、間口が狭く奥行き長い敷地といった商店街の構成に関するものも記憶に多く残されていた。これは、家屋が商売をするのに適した造りとなっており、被災者の生活空間に商店用途が入り込んでいたため、建物の特徴がより明確に印象づけられたと考えられる。

(2)「土地」—「ランドマーク」「レベル差」「自然環境」などの土地のもつ特性は、被災者の生活の中に常にあったもので、地域アイデンティティを象徴するものであることから記憶されやすいものである。

(3)「文化性」—地域住民の物理的・精神的なシンボルといえる閻魔堂<sup>\*1</sup>を中心とするえんま市は、年に 1 度の希少性、県内外から 20 万人以上が訪れる規模、200 年以上続く歴史といった 3 点から、被災者に記憶されている<sup>[7]</sup>。

4. まとめ—以上より、本稿ではえんま通り復興協議会での住民同士の話し合いがまとめられた議事録を基に、「地域の記憶」の構成要素を探った。その結果、「建物」では地域の賑わっていた頃の印象と共に、対象地の気候が豪雪地帯であったこと、「土地」では被災者の生活の中に常にあった地域の地形や景観、「文化性」では希少性や規模、歴史を有する市などといったものが被災者の「地域の記憶」に大きく起因しているということが捉えられた。また、今回得られた知見は、えんま通りまちづくりガイドラインに散見されたが、復興後のまちの現状は、ガイドラインに準じないものも幾つかみられた(Table-2, Figure-2)。今後は、本稿で分類された項目がなぜ被災者に「地域の記憶」として認識されていたかを裏付けるために地域住民にヒアリング調査を行い、詳しく検証する。

**Table 2.** The community development Guideline at Enma.str<sup>[7]</sup>

<b>えんま通りらしい建物</b>
1. 街なみのスケール感になじむ建物高さとする
2. えんま通りらしい街なみを生み出す建物デザインとする
3. えんま通りらしい品のある外観のデザインとする
4. えんま通りらしさを生み出す勾配屋根の街なみとする
<b>通りの連続性</b>
5. 通り沿いの連続性を生み出す建物の連なりを再生する
6. 連続感を損なう通り沿いの駐車スペースはやめる
7. 木製アーケード等により快適な歩行者空間と街なみの連続性を再生する
8. あたためい街灯の灯りによりえんま通りの夜を演出する
<b>商店の個性を生み出す</b>
9. 街を演出しにぎわいを生み出す商店とする
10. 街なみと調和しつつ街を演出する個性的な看板とする
<b>まちなかの住環境</b>
11. 奥行き方向の分棟配置によりまちなかの住環境を向上させる
12. 「お庭小路(案)」を実現しまちなかの住環境と回遊性を向上させる
13. 高低差を活用した魅力的な住環境を生み出す
14. 路地沿いの魅力づくりによりまちなかの住環境と回遊性を向上させる
15. 環境と共生した新しい住環境を実現する
<b>まちなかの憩いの場</b>
16. まちなかの緑や憩いの場を生み出す
17. 緑により通り沿いに潤いを生み出す
<b>街路デザイン</b>
18. 歩行者が安心して楽しめる道広場としての道路空間を生み出す

**Figure 2.** The comparison of the Guideline and the present condition (Figure2 is related to Figure1)



5. 補注・参考文献

※1 (協) 柏崎東町 2 丁目復興会理事長ら 3 名へのヒアリング調査時の会話を参考(2011. 9. 11)  
 [1] 社団法人日本建築学会:「2011 年東北地方太平洋沖地震災害調査速報」, 社団法人日本建築学会, 序, 2011. 7  
 [2] 社団法人日本建築学会:「大震災の災害予防・復旧・復興に向けた建築関連学協会の連携と本会の役割」, p1, 2011. 8  
 [3] 震災復興・企画部震災復興政策課:「宮城県震災復興基本方針(案)の概要～宮城・東北・日本の絆・再生からさらなる発展へ～」, 2011. 4  
 [4] 仙台市:「住まい等に関するアンケート調査結果について」, 2011. 5  
 [5] 朝日新聞:「今伝えたい被災者の声」, p35, 2011. 6. 1  
 [6] 毎日新聞:「阪神大震災復興 神戸市のミス」, p4, 2008. 2. 13  
 [7] 柏崎東町 2 丁目復興会・えんま通り復興協議会:「えんま通りまちづくりガイドライン」, pp. 14 ~15  
 [8] えんま通り復興協議会:「街並検討委員会 建築士会との WS 議事録」, pp. 1 ~ 2, p6, pp. 7 ~ 9, 2009. 10  
 [9] 益尾:「柏崎建築士会が考える えんま通りらしさや新たな魅力を生み出す工夫(案)」, 2009. 11  
 [10] 丸山昌夫:「写真集 ふるさとの百年(柏崎・刈羽)」, 新潟日報事業社, pp. 7 ~ 9, pp. 13 ~ 14, 1982. 2  
 [11] 佐々木高史:「写真アルバム 柏崎・刈羽の昭和」, 株式会社いき出版, p7 pp. 166 ~ 167, 2010. 2